

成人が今接種できる 5つのワクチン

成人・高齢者の ワクチン接種の意義

東京都医師会理事 鳥居 明
2025. 10. 14 定例記者会見



公益社団法人 東京都医師会

成人の ワクチン手帳

氏名 _____



成人のワクチン手帳

高齢者になると体力や免疫力が低下し、感染症などに罹ると入院や重篤な合併症リスクが高まります。感染症を防ぐために予防接種を受けることは大切です。

予防接種を受けることは、ご自身そして、周りにいる大切な方々を感染症から守るためにとても重要なことです。

本手帳は、皆様の予防接種の記録として大切に保管いただき、心配なことがありましたらかかりつけ医等にご相談ください。

ワクチンを受けることで・・・

- (1) 重症化や入院を防ぐ
- (2) 回復後の生活機能低下を防ぐ
- (3) ご家族やお孫さんなど大切な方への感染を防ぐ
- (4) 医療費や介護負担の軽減につながる

※上記のことが期待できるほか、罹患しても比較的軽い症状で治まるなど様々なメリットがあります。

定期接種と任意接種

定期接種：予防接種法による接種

無料または一部自己負担
(自治体・疾病で異なる)

任意接種：任意の予防接種

個人が希望する
医療機関で接種
費用は自己負担

補助がある場合あり
(自治体、疾病
医療機関で異なる)

臨時接種：予防接種法による接種

無料
蔓延予防上緊急の必要性があると認めるとき実施

主に65歳以上の高齢者の方を対象にしたワクチン その感染症の特徴

感染症名	どんな病気？
(1) インフルエンザ	・ 日本では、インフルエンザによる年間死亡者の9割以上が65歳以上の高齢者であり、インフルエンザ感染は高齢者にとって命に関わる深刻なリスクとなっています。
(2) 新型コロナ感染症	・ 新型コロナウイルスは、感染しても軽症で経過し治癒するケースが多くなっていますが、高齢者や基礎疾患のある方では、重症化するリスクが依然として高いことが明らかになっています。
(3) 肺炎球菌感染症	・ 死因の第5位が肺炎で、肺炎の死亡者の95%以上が65歳以上です。 ・ 高齢者の一般的な肺炎の原因では、もっとも多い菌は肺炎球菌です。
(4) 帯状疱疹	・ 過去に感染した水ぼうそうウイルスが神経節に残り、高齢者や基礎疾患のある方では、免疫力が低下しているため、発症しやすく、神経痛が残って強い痛みが長期間続くこともあります。
(5) RSウイルス感染症	・ 高齢者では、肺炎や呼吸不全に至ることもあります。インフルエンザと同等かそれ以上に重症化することがあります。

主に65歳以上の高齢者の方を対象にしたワクチン

ワクチン名	対象者	接種回数
(1) インフルエンザ	▶ 定期接種：65歳以上 （あるいは60～64歳で、 基礎疾患のある方） ▶ 任意接種可	毎年秋冬、1回
(2) 新型コロナウイルス	▶ 定期接種：65歳以上 （あるいは60～64歳で、 基礎疾患のある方） ▶ 任意接種可	毎年秋冬、1回
(3) 肺炎球菌	▶ 定期接種：65歳 （あるいは60～64歳で、 基礎疾患のある方） ▶ 任意接種可 （肺炎球菌感染のリスクが高い方）	1回 ※2回接種の組合せもあり
(4) 帯状疱疹	▶ 定期接種：65歳の方 5年間の経過措置として、 5歳年齢ごとの方 （あるいは60～64歳HIV感染者） ▶ 50歳以上、任意接種可	▶ 組み換えワクチン：2回 ※帯状疱疹に罹患するリスクが 高いと考えられる18歳以上の方 も可。 ▶ 生ワクチン：1回
(5) RSウイルス	▶ 60歳以上、任意接種可 ▶ 50歳以上の基礎疾患のある方に 任意接種可のワクチンもある	1回

ワクチン名	接種年月日	ワクチンの種類	接種した医療機関名
インフルエンザ	年 月 日	・不活化(標準用量) ・不活化(高用量)	
	年 月 日	・不活化(標準用量) ・不活化(高用量)	
	年 月 日	・不活化(標準用量) ・不活化(高用量)	
	年 月 日	・不活化(標準用量) ・不活化(高用量)	
	年 月 日	・不活化(標準用量) ・不活化(高用量)	
	年 月 日	・不活化(標準用量) ・不活化(高用量)	
	年 月 日	・不活化(標準用量) ・不活化(高用量)	
	年 月 日	・不活化(標準用量) ・不活化(高用量)	
	年 月 日	・不活化(標準用量) ・不活化(高用量)	
	年 月 日	・不活化(標準用量) ・不活化(高用量)	

ワクチン名	接種年月日	ワクチンの種類	接種した医療機関名
新型コロナウイルス	年 月 日	メーカー名() ・mRNA・組換え・その他	
	年 月 日	メーカー名() ・mRNA・組換え・その他	
	年 月 日	メーカー名() ・mRNA・組換え・その他	
	年 月 日	メーカー名() ・mRNA・組換え・その他	
	年 月 日	メーカー名() ・mRNA・組換え・その他	
	年 月 日	メーカー名() ・mRNA・組換え・その他	
	年 月 日	メーカー名() ・mRNA・組換え・その他	
	年 月 日	メーカー名() ・mRNA・組換え・その他	
	年 月 日	メーカー名() ・mRNA・組換え・その他	
	年 月 日	メーカー名() ・mRNA・組換え・その他	

ワクチン名	接種年月日	ワクチンの種類	接種した医療機関名
肺炎球菌	年 月 日	・23価ポリサッカライド ・(価)結合型	
	年 月 日	・23価ポリサッカライド ・(価)結合型	
	年 月 日	・23価ポリサッカライド ・(価)結合型	
	年 月 日	・23価ポリサッカライド ・(価)結合型	
	年 月 日	・23価ポリサッカライド ・(価)結合型	

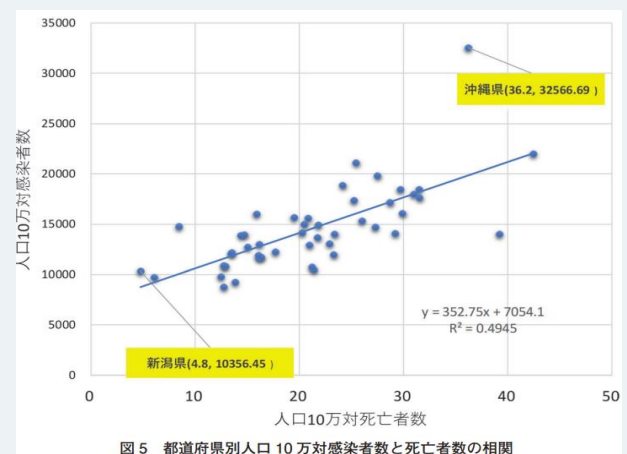
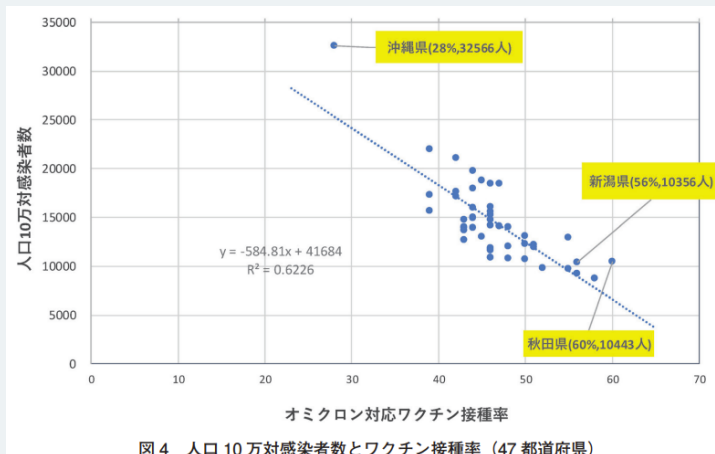
ワクチン名	接種年月日	ワクチンの種類	接種した医療機関名
带状疱疹	年 月 日	・組換え不活化 ・生ワクチン	
	年 月 日	・組換え不活化 ・生ワクチン	
	年 月 日	・組換え不活化 ・生ワクチン	

ワクチン名	接種年月日	ワクチンの種類	接種した医療機関名
RSウイルス	年 月 日	・メーカー名()	

	接種年月日	ワクチン名	接種した医療機関名
その他の ワクチン	年 月 日		
	年 月 日		
	年 月 日		
	年 月 日		
	年 月 日		
	年 月 日		
	年 月 日		
	年 月 日		
	年 月 日		
	年 月 日		

新型コロナワクチン接種と感染率/死亡者数の関係について

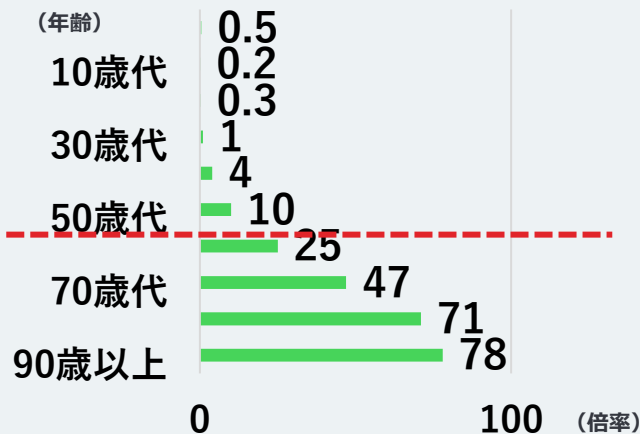
オープンデータを基に人口10万対感染者数を目的変数とし、人口密度、生活保護率、ジニ係数、人口10万対COVID-19対応確保病床数、ワクチン接種率、人口10万対死亡者数、高齢化率を説明変数とする重回帰分析を行った。その結果、**人口10万対感染者数とワクチン接種率の相関**を示しており、**強い負の相関**が見られた。一方、**人口10万対感染者数と死亡者数の相関**は**正の相関**を示した。



新型コロナウイルス感染症によるリスク

30歳代と比較した場合の各年代の重症化率について

60歳代は30歳代に比べ、約25倍重症化率が増加する。
「重症化率」は、新型コロナウイルス感染症と診断された症例（無症状を含む）のうち、集中治療室での治療や人工呼吸器等による治療を行った症例または死亡した症例の割合を示している。



厚生労働省（新型コロナウイルス感染症の“いま”に関する11の知識）
新型コロナウイルス感染症（COVID-19）診療の手引き・第7.2版 より作成

重症化に関する基礎疾患について（米国CDCまとめ）

肥満（BMI30以上）、高血圧、糖尿病、喫煙、COPD、慢性腎臓病、心血管疾患などがあると重症化リスクは上昇する。

エビデンスレベル	高	低
悪性腫瘍	悪性腫瘍（血液腫瘍）	
代謝疾患	1型および2型糖尿病 肥満（BMI ≥ 30）	肥満（25 ≤ BMI < 30）
心血管疾患	脳血管疾患 心不全 虚血性心疾患 心臓症	高血圧症
呼吸器疾患	間質性肺疾患 肺萎縮症 肺高血圧 気管支喘息 気管支拡張症 慢性閉塞性肺疾患（COPD） 結核 薬剤性肺病変	気管支肺異形成
肝疾患	肝硬変 非アルコール性脂肪肝 アルコール性肝障害 自己免疫性肝炎	B型肝炎 C型肝炎
腎疾患	慢性腎臓病（透析患者）	
精神神経疾患	気分障害 統合失調症 認知症	薬物中毒
運動不足	運動不足	
妊娠	妊娠・産褥	
喫煙	喫煙（現在および過去）	
小児		基礎疾患のある小児
遺伝性疾患	ダウン症候群	鎌状赤血球症 g1: アンチトリアンク大炎症 サラセミア
免疫不全	HIV感染症 臓器移植・幹細胞移植 ステロイド等の免疫抑制薬 の投与 原発性免疫不全症候群	

厚生労働省（新型コロナウイルス感染症の“いま”に関する11の知識）
新型コロナウイルス感染症診療の手引き 第10.1版 より作成

新型コロナウイルス感染症によるリスク

新型コロナウイルス感染症とフレイルの直接的関連

COVID-19患者におけるフレイルの存在は総死亡率、COVID-19の重症度、集中治療室へ入院、侵襲的人工呼吸器の導入、10日間以上の入院、などの様々なリスクを有意に上昇させていた。



J Nutr Health Aging. 2021;25(5)702-709

新型コロナウイルス感染症とフレイルの間接的関連

栃木県大田原市でのコホートデータによると、コロナパンデミック期は、**高齢者の活動量が落ち、プレパンデミック期と比較し、体幹筋肉量の有意な減少（平均6.2%）や握力や歩行速度の低下がみられたという報告もある。**

Int. J. Environ. Res. Public Health 2022, 19, 11438.

新型コロナウイルス感染症とフレイルは直接的、間接的に関連性があるため、**ワクチンを接種することで、新型コロナウイルスに感染しないことはもちろん感染リスクを落とすことで活動量を維持することが重要である。**

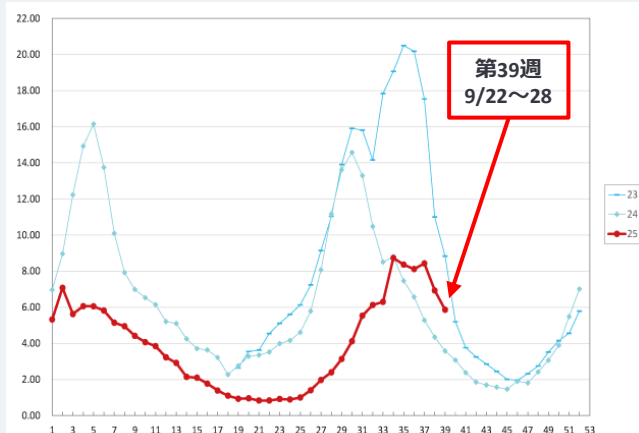
感染症誘発関連疾患にも注目する必要がある。

- ① フレイル
- ② 認知障害

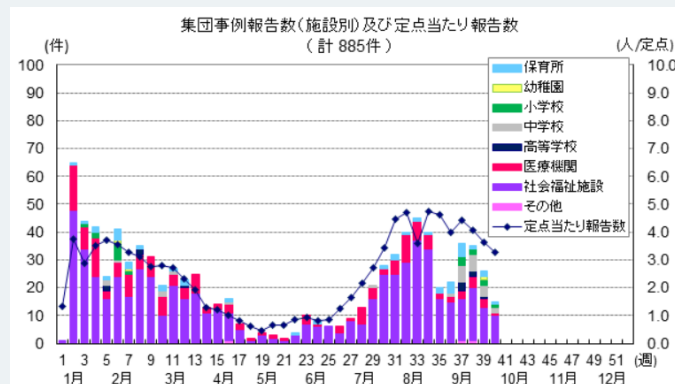
新型コロナウイルス感染症の流行状況について

新型コロナウイルス感染症の流行は、毎年、**二峰性の流行**を示し、2025年も夏から秋にかけて流行を示している。
 現時点の感染、重篤化予防を目指すことはもちろん、**冬場の流行も見据えたワクチン接種**が重要である。

国内の流行状況



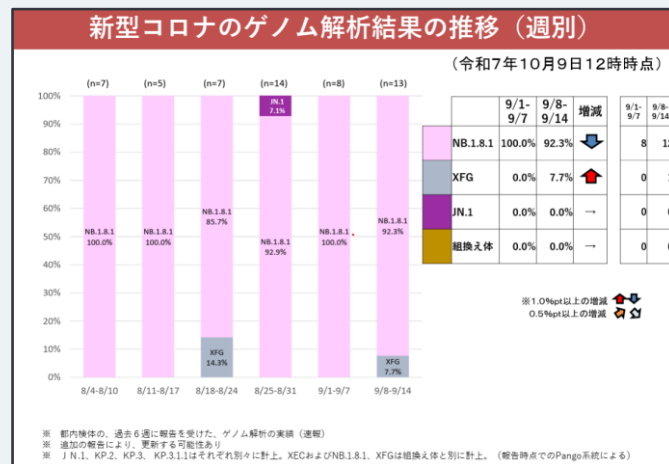
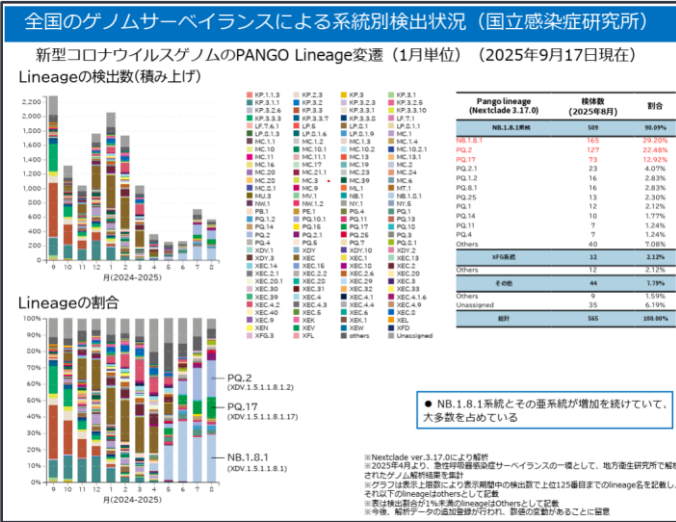
東京都の流行状況



国立健康危機管理機構 (JIHS) 感染症情報提供サイト/東京都感染症情報センターサイト より作成
<https://id-info.jihs.go.jp/surveillance/idwr/jp/graph/weekly/22covid.html>
<https://idsc.tnmph.metro.tokyo.lg.jp/diseases/2019-ncov/>

新型コロナウイルス感染症の流行株について

現在の流行は、**NB.1.8.1（ニンバス）株**によるものである。
 新型コロナウイルス感染症の患者さんにおいて、国内では約30%、都内ではほぼ100%(n=13)でNB.1.8.1が検出されている。



国立健康危機管理機構（JIHS） 感染症情報提供サイト/東京都保健医療局サイト より作成
 (https://id-info.jihs.go.jp/surveillance/idwr/jp/graph/weekly/22covid.html)
 (https://www.hokeniryo.metro.tokyo.lg.jp/kansen/info/corona/corona_portal/henikabu/screening)

新型コロナウイルスワクチンの安全性について

国内コホート調査による 組換えタンパクワクチンの接種後 8日間以内の有害事象

疼痛は約50～約80%であり、
37.5℃以上の**発熱**は、約5～20%だった。

有害事象	1回目 (73人)	2回目 (63人)	3～5回目 (404人)
局所反応	疼痛	50.7%	77.8%
	腫脹	9.6%	12.4%
全身反応	倦怠感	34.2%	63.5%
	頭痛	30.1%	47.6%
	発熱 (37.5℃以上)	5.5%	9.4%
	発熱 (38.0℃以上)	0%	1.2%

国内コホート調査による mRNAワクチンの接種後 8日間以内の有害事象

疼痛は約85～約95%であり、
37.5℃以上の**発熱**は、約30～50%だった。

	n=158	n=45
接種部位疼痛	86.1%	95.6%
倦怠感	64.6%	77.8%
頭痛	43.7%	60.0%
発熱 (37.5℃以上)	29.1%	53.3%
発熱 (38.0℃以上)	16.5%	33.3%

まとめ

- 手洗い、換気など、**基本的な感染症対策を徹底**する。
- 高齢者では様々なリスクの観点からも、感染症に**感染しない**こと、仮に感染したとしても**重篤化させない**ことが大切。したがって**高齢者ではとくにワクチンの接種が重要**といえる。
- ワクチン接種のメリット**：①感染の予防 ②重症化の予防 ③後遺症の予防
④ 感染症誘発関連疾患（フレイル、認知障害）の予防

VPD（Vaccine Preventable Disease）：「**ワクチンで防げる疾患はワクチンで防ぐ**」

*新型コロナワクチンとインフルエンザワクチンとの**同時接種も可能**です。

*ワクチンによっては、**接種するワクチンの種類を選ぶことも可能**です。